

高松の池白鳥飛来記録

高橋千恵・高橋次雄

盛岡市の高松の池に初めてハクチョウが飛来したのは、昭和58年12月8日でオオハクチョウの成鳥2羽でした。12月11日に更に2羽飛來した。この年はその4羽以外は飛來しなかった。

翌、昭和59年は11月15日と16日に成鳥2羽づつ飛來した。28日に幼鳥3羽を連れたペアが飛來した。親子は12月4日に再び飛來し7日まで高松の池に留まった。12月22日に高松の池が全面結氷した。この年から1才11ヶ月の私が祖父と給餌を始めた。

昭和60年の初認は11月28日で成鳥2羽であった。12月2日に成鳥2羽飛來した。この年のハクチョウ飛來はこの2回のみと少なく大変残念に思った。

昭和61年の初認は11月30日で成鳥2羽が飛來した。12月は106羽、3月は354羽のオオハクチョウが飛來した。

昭和62年の初認は11月28日で親子4羽、翌年3月26日に盛岡三高のボート部が練習のため槽艇したところ73羽のハクチョウが飛び去った。この年の延べハクチョウ飛來数は1695羽と初めて1000羽を越した。

昭和63年の初認は、前年より3日早く、11月25日に親子3羽が飛來。この年は延べ飛來数は前年を大きく下回り344羽であった。そのうち2月が163羽と一番多く飛來した。

平成元年（昭和64年）の観察は思いで多い年である。それは私が小学1年生となり本格的に「しろいとり」ハクチョウの観察を始めたことと、高松の池にハクチョウが滞留し越冬地として名を残すことができたからである。初認は11月9日成鳥のオオハクチョウ1羽であった。12月は863羽が飛來した。2月28日は1日に58羽が停留これは一日の在池最高である。4月4日近くの釣り堀に1羽が移動、他のハクチョウは北帰した。1羽が残る、傷病鳥と思われ、岩手県鳥獣保護センターへ預けた。

平成2年は10月29日成鳥2羽が飛來、10月の初認は初めてである。1月26日は158羽が滞留、これは1日の在池記録として初めて100羽を越えた。4月4日ボートが出たため、1羽を残して北帰する。4月6日残り1羽を緑が丘で保護して北上川で放鳥した。この年の延べ飛來数は8371羽である。

平成3年は10月14日親子4羽が初認、前年より15日早い飛來です。12月31日159羽が越年し新年を迎える。飛來するハクチョウも月ごとに増え、1日の在池羽数も更新の連続である。4月8日羽を痛めた1羽を北上川で放鳥する。

平成4年の初認は10月8日と今まで一番早く1羽が飛來。11月13日成鳥7羽、幼鳥5羽の家族群が飛來する。3月28日池にボートが出たため全部他へ移動した。4月3日早朝20羽が戻るが、お昼近くに北帰した。

平成5年の初認は10月27日と昨年より19日遅くオオハクチョウ18羽、コハクチョウ4羽が飛來し

た。11月11日に21羽のハクチョウが飛来、その中にアメリカコハクチョウ「クロちゃん」がいた。3月1日には546羽のハクチョウを観察、この増加は北上川にボートが出たためかと思われる。4月4日に2羽が残る。幼鳥を保護し、4月10日成鳥を北上で放鳥する。

平成6年の初認は昨年と同一の11月27日に成鳥2羽である。12月30日は517羽のハクチョウを数える、これは12月の累計として昨年より3541羽多い。2月3日にシートを引っかけた幼鳥がいたのでボートを出して救出する。3月5、8、9日には約600羽を越すハクチョウが見られたが、花火によるいたずらで程んどハクチョウが飛び立つ。4月8日戻ってきたハクチョウがラジコンヨットのために激減する。4月27日終認。

平成7年には、10月19日にオオハクチョウの成鳥が初認。この月はこの2羽のみ以外観察することができなかった。全般的に暖かく南下が遅く、11月23日に123羽が飛來した。12月31日には546羽のハクチョウが観察されたが徐々に北帰し、4月6日に186羽と減少した、この年は4月の後半まで貸ボートが出ず、長期間ハクチョウを観察することができた。また、1シーズンで延べ55521羽のハクチョウが在池た。4月22日に最後に3羽が北帰し、とてもさびしい気持ちになりました。

高松の池ハクチョウ飛来延べ数

(単位名: 羽)

